

# コロナ禍における社会教育活動アンケート結果概要

## コロナ禍の社会教育活動

### 設問内容

1. あなたの活動分野は(複数回答可)

- 芸術・文化・教養    スポーツ・健康    子育て    高齢者・福祉  
自治会・子ども会    PTA    その他\_\_\_\_\_

2. あなたの役職は(以下、主たる活動でお答え下さい)

- 代表者    本部役員    一般会員    その他\_\_\_\_\_

### 【設問1、2 結果概要】

新型コロナウイルス感染症の国内初の感染者が出てからすでに一年を経過した。本アンケートは、2回目の緊急事態宣言前、いわゆる第3波の懸念が強まり出した中の調査で、コロナ禍の社会教育活動についての多様な意見が寄せられていた。

回答者の活動分野は「芸術・文化・教養」系の生涯学習が15%、「スポーツ・健康」系が36.5%で、半数を占める。残りは、自治会・子ども会の地域活動は42.6%、その他の活動となっており、生涯学習、地域活動のバランスがよい。回答者の7割が団体の代表者・本部役員で、一般会員にも回答をいただいている。なお、社会教育活動とは、社会教育法における社会教育に基づき、学校教育ではない、町内の組織的教育的活動を指し、自治会や生涯学習活動、PTAや子ども会活動なども含みます。

### ● 95%が影響を受け、内4割が活動できていない

### 設問内容

3. 新型コロナウイルス感染症の活動への影響は

- 変更なく活動している    やり方を変更して活動    活動できていない

4. 年間計画への影響は

- 年内の活動を中止    年度内の活動を中止    計画を組み直した  
活動・行事ごとに検討している    その他

5. 新型コロナウイルス感染症に伴い、活動に影響しているものは(複数回答可)

- 会議等ができない    感染症対策がとれない    公共施設の利用制限  
町等の支援不足    参加者の減少    依頼がなくなった    影響ない  
その他

6. 現在の連絡・会議方法は(複数回答可)
- 郵便    電話    ファクシミリ    メール(メーリングリスト)
- LINE などの SNS(グループウェア含む)    対面会議
- ZOOM などのリモート会議    その他
7. その連絡方法は
- コロナ対策で新たに導入したものがある    これまでと変わらない

### 【設問3～7 結果概要】

新型コロナウイルス感染症による影響を受けた活動は95%に及んでいる。その6割が「やり方を変更して活動」、残りの4割が活動できていない。年内の活動を中止したのは16%、年度内の活動を中止したのは9%と、4分の1が時限的に活動を中止した。6割近くの活動が、活動や行事ごとに実施するか否かを検討している。

具体的な影響について尋ねると、どの活動も感染症対策を余儀なくされているが、地域社会活動では「会議等ができない」とする回答が多い。一方「参加者の減少」、「公共施設の利用制限」の課題は生涯学習活動からの声。活動場所の利用制限と「町等の支援不足」を関連付ける傾向は見られない。感染症だから致し方ない措置と受け止められているのではないか。

連絡方法や会議方法は、4割以上がLINEなどのSNSを活用し、電話やメールと続いている。コロナ対策で新たな連絡方法を導入したのは2割にとどまる。回覧板も有用だ。

### ● 活動再開には参加者の意向が重要

#### 設問内容

8. 活動再開の見通しは
- 感染対策の上再開    感染症が収束したのち    町等の安全宣言
- わからない    中断していない    その他
9. 活動再開に向け、工夫していくことはなんですか(複数回答可)
- 感染対策を講じ通常活動    分散しての活動    オンラインでの活動
- 参加者の意向に合わせた活動    その他
10. 来年度の活動で抱えている課題はなんですか(複数回答可)
- 感染症が収束しない場合の対応    計画が立てられない
- 役員引継ぎができない    指名活動ができない    活動支援情報不足
- その他

## 【設問8～10 結果概要】

活動再開の見通しは、3割が「感染症収束後」、同じく3割が「わからない」と答えた。「感染症対策の上再開、中断していない」は2割だった。活動再開に向けての工夫は、感染対策を講じての通常活動とするのが半数。参加者の意向に合わせた活動が同数なのは印象的である。活動には参加者、構成員の理解が不可欠であるとの意識が強いと思われる。

令和3年度にも感染症は影響するであろう。8割がその際の対応を課題としている。役員引き継ぎや指名活動等の人的側面より、来年度の活動そのものへの影響を懸念する声が8割近くにも及んでいる。また、現状の課題に「町の支援不足」に声は集まらなかったが、「活動支援情報不足」はこの回答で倍増している。事態が長引くにつれ、活動支援情報の提供が不可欠になってくることが予想される。

## ● 主催者の複雑な思い～コロナ以降への危惧

### 設問内容

11. コロナ以降の社会教育活動はどうかと思いますか(複数回答可)
- もとに戻していける 感染症対策が標準になる 活動が変わる
- 活動縮小や中止も考えなくてはならない 変わらない わからない
- その他
12. 前問への回答の理由、あるいはコロナ禍での活動に関するお考えをお書きください。

## 【設問 11、12 結果概要】

最後にコロナ以降の社会教育活動について聞いた。「感染症対策が標準になる」が6割、ついで、「活動縮小や中止も考える」が5割とつづくのは気になるところだ。そうした課題を抱える関係者の思いは、自由記述にも現れている。

多くの人の心には「感染対策を取りながら、できることから再開すべきだ」という思いがある。書面会議なども盛んに行われたことから、収束後も引き続き活動の精査を行い、負担軽減を求める声も興味深い。しかし、主催者の思いは複雑だ。

「今後安全対策し活動を再開したが感染者が出てしまったで済むのであろうか…。責任が取れない」といった声は切実だ。「感染症対策の勉強会が必要」、「意見交換のできる場を設けて」、「役場、教育委員会等の公の方針に従い、立案、推進が必要」と訴える。またコロナ禍が健康活動の減少や人とのつながりを失わせるだけでなく、活動への関心の低下や「伝承地域文化の消滅に繋がると危惧」している。

## 「正しく恐れて前向きに」の情報共有、連携を

しかし、コロナを通して創意工夫も起こっている。オンラインによる活動、子どもたちの笑顔を作る努力…、「何もしないことがいちばん簡単でリスクもないが、いろいろな前向きなアイデアを出し合うことも必要」だ。本町の社会教育関係者は、「正しく恐れて前向きに」、感染症対策を怠らず、ともに活動する人と何が大事か、何ができるのかを、改めて問いながら取り組んでいる。そうした点から、活動を超えた情報共有、連携、それへの支援も今後は求められてくるのではないか？

以上、回答いただいた方々への感謝とともに概要に代えさせていただきます。

- アンケート全体をまとめた資料は、町ホームページからご覧いただけます。
- このアンケートの問い合わせは、中井町教育委員会生涯学習課まで。

アンケート結果の詳細はこちら  
(中井町ホームページ)

